

第6回日本短歌大会 in 富山開催される

2009年3月1日(日)、富山県民会館において

第6回日本短歌大会 in 富山が開催されました。

当日は天候にもめぐまれ、盛会となりました。

大会の次第は次のとおりです。

開会挨拶

協合理事長 鈴木博三氏



歓迎のことば

富山県歌人連盟会長 米田憲三氏

記念講演

「後井嘉一の人と作品」鈴木博三氏

「現代を生かす良寛の歌」大星光史氏

以上に引き続き、短歌大会受賞者の発表、表彰式が行なわれました。



受賞者は次のとおりです。

【一般の部】

日本短歌協会賞

市川光男(長野)

軒先に干大根のすだれありどの軒先も白く明るく

日本短歌大会 in 富山賞

永森たか子(富山)

助詞一つ決めかねておりサラダ菜を大きく振りて水を切りたる

富山県芸術文化協会会長賞

木下悦子(石川)

ほうたるを両手で包み覗き見るほうと灯りぬ命の温もり

富山県歌人連盟会長賞

佐伯悦子(富山)

薄型の電子辞書愛するわたくしを書棚より睨む重き広辞苑

北日本新聞社社長賞

塚本和子(福井)

解禁の力二を手に笑む園児らを表紙に港のタウン誌届く

〔選者賞〕

鈴木博三選

望月綾子(石川)

歳とりて佳きことのひとつ身の辣の疼きうすれてひと赦しあり

塚本和子(福井)

解禁の力二を手に笑む園児らを表紙に港のタウン誌届く

飛驒雅子(神奈川)

負けを勝ちに苦戦を善戦と言ひのけて偽装は国が先ず示しにき

田中子之吉選

津田典男(東京)

こな雪を花蕊にうけて白梅は香りはなてり月光の中

天野道子(福井)

道すから木犀の香に見渡せば衰へし蔓にひとつ朝顔

早川モト工(新潟)

弥彦山が暗く見えぬ日雨といふ雨来ぬ間にと急ぎ稲刈る

梓 志乃選

諸富佐智江(福岡)

秋の陽に膨らむ布団この夜は小さき幸せ抱きて眠らな

今井和子(富山)

月かげに露ひかりつつ太る大根地の裏側の自爆死おもう

依田仁美選

古瀬生枝(富山)

月光の雫を受けて棕櫚の葉は交信するがに折折光る

藤永洋子(千葉)

起きぬけに飲む朝の水ああ秋のロゴスが開かれゆくむらぎもに

中村和子(広島)

墨色の意のままならず夜の更けにマッサージ器に肩をもませる

光本恵子選

宇井 一(京都)

観覧車もう動かない時計塔忘れ去られる遊園地跡

樽井富代(長野)

鈴の形した史がなる筈だったプラタナスかたくかたく拳をにぎる

齊藤久雄(富山)

秋日和にひらり一葉また一葉境内染める銀杏の黄葉

田中 讓選

澤田恵子(石川)

己が身の葬り済みしかと問いてくる姉の電話にことば失う

大人伴 拓(富山)

市となれどナビに道無くケータイの届かぬ字にふたり住み古る

高峯正間(富山)

特攻戦死による二階級特進今に憧るるころの在り処思ふゆゑなく

久泉迪雄選

平井深雪(富山)

たのめなき未来と思えど春に咲く花の球根土に埋める

上田洋子(富山)

ブラシルへ移民せし五十年経ちてなほ友の文美しさ日本語書かる

中村富代(石川)

イヤリングのさまに黄色の耳標付け肉牛の仔は秋の日を浴ぶ

〔佳作〕

児玉普定(福井)

老いたれど古りしトラクターの各部分給油を済ます秋耕終えて

浦壁あけみ(東京)

乳呑み児がパツと開きし手のごとくコスモスの花一輪咲きて

樽井富代(長野)

鈴の形した実がなる筈だったプラタナスかたくかたくこぶしをにぎる

諸富佐智江(福岡)

秋の陽に膨らむ布団この夜は小さき幸せ抱きて眠らな

寄田 即子(富山)

川岸に彼岸花赤き帯をなす戦火に逝きし人の数ほど

岡峯慶子(富山)

立てられし支柱に巻かず草生這ふ信ずる道か朝顔といへど

森田和子(福井)

秋風に揺れる心をあずけつつ素直になりし野仏の前

飛驒雅子(神奈川)

負けを勝ちに苦戦を善戦と言ひのけて偽装は国が先ず示しにき

大伴 拓(富山)

市となれどナビに道無くケータイの届かぬ字にふたり住み古る

山口元子(福井)

一輪車に肥料を積みて坂登る重さ身にしむ今年のわれは

最首洋子(千葉)

深まれる秋か湿り気もつマウスわが手と分ちがたくぬくしも

宮崎滋子(富山)

跳び箱の飛ばない八歳祖母と娘のDNAを継ぎているなり

澤田恵子(石川)

己がみの葬り済みしかと問いてくる姉の電話にことば失う

古瀬生枝(富山)

月光の雫を受けて棕櫚の葉は交信するがに折折光る

大澤真喜子(富山)

金木犀の香り音山に響かいて溪の紅葉のいよいよ紅し

平井 深雪(富山)

たのめなき未来と思えど春に咲く花の球根土に埋める

加藤八電子(東京)

両眼のやうに丁宇路に立つミラー右目の中へわたしは消える

秋村トミ子(富山)

我が心雨漏りするや介護職泣きたいくせに笑っていた夏

渡辺知英子(茨城)

小僧とも頭とも呼ぶ膝頼り山道下ち笑わず進め

森迫晴子(千葉)

寒月の光差しきてじんじんと心に冷えを落とし過ぎ行く

【ジュニアの部】

大林翔平(高1・富山)

誰よりも「僕達」を知る広い空その色を見て心を学ぶ

ジュニア賞

高山 祐次(高2・富山)

友一人無くした悲しみ消すのなら友五人でも足りないだろう

ジュニア賞佳作

土反彪聖(小1・富山)

すごいねおちばがいつぱいさいているおねがい出てきてかぶと虫さん

大橋由奈(小1・富山)

はつびょうかいみんなできせきおこしたよ一年一組ちからはひとつ

林 英朗(小1・富山)

はちさんがときどきいえにやってくるなにをそんなにおこっているの